

SPirit

スピリット

Shimane Physical Therapy

The Interview



由美

SPirit特別号では県士会内の会員を紹介します。
今回は県学会関連でインタビューを行いました。

あなたの“大切”を彩る
島根県理学療法士会

TABLE OF CONTENTS

1

藤丘政明 先生

島根県立中央病院

2

福島卓 先生

松江総合医療専門学校

3

寺本光佑 先生

山口整形外科医院

4

竹下幸枝 先生

えだクリニック

5

田中祐介 先生

公立邑智病院

6

坂根健太 先生

有限会社よろこぼう屋



教育と臨床の舞台で育まれる
リーダーシップと臨床教育への期待

島根県立中央病院

藤丘 政明

Masaki Fujioka

【Guest Speaker 紹介】

2008年に広島県立保健福祉大学（現：県立広島大学）保健福祉学部理学療法学科を卒業。同年に総合病院岡山協立病院に入職。2013年に島根県立中央病院に入職。臨床では、全診療科の急性期理学療法に関わっている。臨床業務以外にも科のMVV作成や業務改善、新人教育も担当し、部門マネジメントの一端も担っている。

取得資格：認定理学療法士（運動器、呼吸、脳卒中、管理運営）、3学会合同呼吸療法認定士、心臓リハビリテーション指導士

普段の活動について

石田 本日は島根県立中央病院の藤丘さんにインタビューさせていただきありがとうございます。自己紹介もお願い致します。

藤丘 島根県立中央病院の藤丘政明です。日頃は急性期の患者さんに対して理学療法を行っていて、疾患に縛られずに実施しています。基本的には整形外科疾患や脳血管疾患、心リハなどの患者さんを担当することが多いですね。臨床に関して後輩の指導も、もちろん行いますが、今は、科のマネジメント業務にも加わっていて、科のミッシェンビジョンを今年から運用させたり、科の困り事を解決する会を主催したりしています。また、後輩が学会発表する際の指導も一緒にしています。以上です。

石田 ありがとうございます。すでに自己紹介で面白そうな点がいくつかありました。藤丘さんがマネジメント業務にも関わっているっていうのは、役職としてやっておられるんですか？それとも何か業務を変えていこうっていう中でやっておられますか？

藤丘 基本的には自主的に提案してやり始めたことですかね。提案したものについて、自分でその役割をしているだけで、それが科のマネジメント業務の中の一部になっているという感じです。

石田 ミッシェンビジョンの策定は、みんなで作ったってことですか？

藤丘 はい。その中でリーダーのような役割を担っていました。

石田 ちなみに藤丘さんの科のミッシェンビジョ

ンは何ですか？

藤丘 「より良い明日を実現する」です。

石田 ちなみに、藤丘さんは臨床というか、理学療法に興味みたいなのはいかがですか？

藤丘 もともと運動器やスポーツ系が好きで、理学療法士を目指しました。

前の病院では外来の整形の方、特に肩関節周囲炎や膝のOAVの方を担当する機会が多くあったので、特に運動器領域は若手の時から勉強してきて興味があります。あとは急性期が好きなので、集中治療領域も興味があります。今度、集中治療理学療法士資格も取得しようと思っていて、興味を持って取り組んでいるところなんです。

石田 本当にジャンルにとらわれず、というか、幅広くという感じがピタリですね。

藤丘 そもそも診療補助

行為の一部である理学療法を個別に分けるっていうのがどうなのかっていう個人的な思いがあります。そういう意味で、スペシャリストではなくてジェネラリストの方に志向性があるのかなって感じます。

石田 県立中央病院の皆さんは、そういう感じですか？診療のことについても詳しく伺いたいです。

藤丘 心りハだけは5・6人ぐらいが分けて担当するっていう感じになっていきますが、他の疾患については、基本的にはまんべんなく担当しています。昔は、「PT」が少なかったので、誰か1人休んだ場合に誰かしかカバーできないとなると不都合が生じるので、その名残かもしれません。病院自体の臨床業務としては、スペシャリストとい

うよりも、ジェネラリストが育ちやすい環境にあると思います。

学会に向けた取り組み・発表について

石田 それでは県学会の話に移ります。わたしも当日会場でも見させていただけました。内容としては実習生の話だったと思うんですけども、あの取り組みを発表しようと思っただきつけは何だったのでしょうか？

藤丘 まとめようと思っただきつけは、2年間にわたってとにかくコロナで、実習で十分に診療に参加してもらいうことができなかったということがあります。「コロナだから仕方ない」という風な1年2年と過ごしてきたんですけど、さすがに3年経つても「コロナだから仕

方ない」で諦めるのは、指導者の怠慢なんじゃないかなと思って。そういう中でどういう工夫ができるかというところを考えて、あの発表の内容を作り出したというところですね。どう

いう指導方法を取るかというと「How to」のところ

で、その1個きつかけになればいいなと思って取り組みました。県内養成校の実習生に対して試したの

で、県学会に返すのが筋だろうと思って発表したところになりました。

石田 なるほど。臨床教育的な部分にも藤丘さんは興味があったということですか？

藤丘 そういうわけではなくて(苦笑)。若手の時は本当に実習指導っていうものに熱を入れていた時期もありましたが、最近は少し気持ちが減っていました。これをやりだす時は、科内の新人教育も体系的



にやろうと、科内で考えだした時だったので、合わせて実習指導もついでというように考えたという感じです。ですので、特別臨床教育に興味があるっていうよりも、自分がやっている役割の中で、たまたまこれが今回あったというようなところでした。

石田 ミッションビジョンの話ともつながりますが、いろいろ組織の中を体系立てられるように変えていこうっていう中の取り組みの一つとして、これもあったっていうのが実際という感じですかね。
藤丘 位置づけ的にはおっしゃる通りです。
石田 発表されてみて結構興味がある人が多かったです。じゃないかなと思います。すがいかがでしょうか？

藤丘 発表の時や会場でも県内の教員の先生に質

問をもらったり、他施設の方からちよつと見せてくださいということ。問い合わせをもらったりしました。あとは、うちの病院内で今度来る実習生に使うおうつていうことを話しています。それ相応に反響があったのかなというところは感じています。

石田 確かに発表でもおっしゃっていたように、文字にする分明確になるので指導ポイントも分かりやすいし、漏れとかも少ないっていう良さもありますよね。

藤丘 それが本来レポートの役割だったのかもしれないですね。ただ、レポートを作るのは時間がかかるし、もうレポート課題がない学校も多いので、思考をまとめるという意味で、今回発表したシートは使いやすいのではないかと思います。

石田 反対に今回発表された内容でなんですけど、例えばブラッシュアップするとしたら、どのような点がありますか？

藤丘 課題としては、シートの記載項目の自由度をどれだけ縛るか。というところがあります。今は割と何でも書けるようになってるんですが、記載する項目を指定していくと、ややこしくなって、反対に学生が書きにくくなるんじゃないかっていうのも議論しています。とりあえずは今の自由記載でやってみて、疾患別にもうちよつとシートを分けるのか、今のままでもうちよつと工夫をするのか。というところは事例を増やさないところからかなという話をしてるところです。
石田 聞き忘れていましたが、最優秀賞を受賞された喜びの声、聞かせてもら



つてもいいですか？

藤丘 とにかくうちは学術活動始めたばかりで、去年職場の後輩がグリーンアカデミー賞（臨床経験5年目以下の発表者の中で最も優秀な演題に与えられる賞）を取って、うちの学術活動にとってもよかったです。ということがありました。今回は、立ち位置的

に一人だけだ。ぶ経験のある人が発表するみたいな感じだったんですけど、そういう中で発表内容を取って評価してもらえて賞を取れたというのは、僕にとっても嬉しかったです。うちの学術活動にとってもすごい励みになることだったと思うので、そのことが僕にとって一番嬉しか

つたです。

今後の展望

石田 学術活動で来年再来年あたりの展望みたいなのがあればお聞かせください。

藤丘 僕自身、大きい将来のビジョンとかがないタイプなので、来年どうしようとか、再来年どうしようっていうのあまりなくて、目の前のことをしっかりとやっていこうという感じですね。とりあえず、今回

この賞をいただけただけなので、この内容については実践報告という形でまとめて理学療法教育に出そうかな、というふうに考えています。

あとは、中堅とかベテランもしっかり発表して地域課題を解決したり、今回のシンポジウムみたいに、県の中でいいことになるような取り組みとかを發表したりしてその地域に貢献できればな・・・、違う、「共に育んで」いきたいなというふうに思っています。



す。(笑)

石田 今日はお時間いただいてありがとうございます。

藤丘 ありがとうございます。

広報部のつぶやき

やりたいことをやって発表したという流れではなく、組織のなかの役割をしっかりと全うされる中で、発表まで結び付けられたというのが非常に印象的でした。組織の中で、学術的な面も活発になってきているということ、今後の取り組みや活動には非常に期待してしまいました。



藤丘 政明



臨床家から教育者へ

「県学会発表で得た
可能性と次なる挑戦」

松江総合医療専門学校

福島卓

Suguru Fukushima



The Interview

【Guest speaker 紹介】

2014年に松江総合医療専門学校理学療法士科を卒業。同年に大山リハビリテーション病院に入職。鹿島病院での勤務を経験後、2021年から松江総合医療専門学校の専任教員として勤務。2023年には吉備国際大学大学院保健科学研究科修士課程を修了。専門学校では、中枢神経疾患に対する理学療法や理学療法評価学などの講義を受け持っている。

取得資格：認定理学療法士（脳卒中）、パーキンソン病療養指導士、介護予防推進リーダー

教員に至った経緯

松本 今日は、松本拓也がインタビューさせていただけます。福島先生、最初に、自己紹介をお願いします。

福島 卒業した学校は、松江総合医療専門学校を卒業し、その後吉備国際大学の大学院を修了しました。長く勤めていたのが鳥取の回復期リハで、数年前に島根に戻ってきて、現在は松江総合医療専門学校で教員をやらせていただいております。松江市の出身ですので、地元に戻ってきたというような形です。高校を卒業して理学療法士とは関係ない大学に行き、そのあと専門学校に入り直しています。全く違うことを勉強していて、路線が変わった感じがあります。

松本 なぜ路線が変わったのですか？

福島 たまたま数学の勉強をしていたのですが、教員免許を取るのに実習に行かないといけなくて、そこで養護施設に行く機会があつてそこで理学療法士の方と関わって、興味を持ったっていうのは路線変更のきっかけになっています。

松本 教育実習に行っていてそこで路線変更したのですか？

福島 そこですすぐではなかったのですが、こういう仕事があるのだと思って自分で調べてみたりとか、自分もスポーツやったり、自分もスポーツやったり、そういうのに関わるのもいい仕事だなんて思いました。実際いろいろ調べている中で理学療法士になりたいなっていうのが芽生えて、理学療法士の養成校に行つたという

感じます。

松本 そのような経緯があつたんですね。全然知らなかつたです。ちなみに、松江に戻ってきたとおっしゃられていましたが、松江に戻ってこられたのはいつですか。

福島 松江に戻つたのは今年ではなく5年前くらいです。教員は3年目で、その前の2年間は別の病院で勤めていました。

松本 教員になつた経緯や、きつかけを教えてください。

福島 きつかけはお誘いがあつたつてというのが一つ大きなところで、お誘ひただひいて少し考えてちよつと自分の中で1回知識を整理するのにも、あと人に教えるのも勉強になると思ひましたので、別の視点から自分のキャリアを高められるところかな、と感じて教員をさせてい

ただきました。それまで全く考えていなかつたです。
松本 では次に行きますが、今教員をやつていて、日頃の活動とか、そもそも臨床に出ていた時の臨床の興味はどういつたところにありましたか？

福島 臨床の興味としてはもともと、勤めていた病院が脳卒中などの中枢系の患者さんが多く入院されており、脳卒中や中枢系に勉強会も重きを置いています。ですので、PPTとして働き始めた頃から、やつぱり中枢や脳卒中関連つていうところに興味を持ってやつてきました。認定資格も脳卒中の方を取らせていただきました。今、学校の方でも、脳卒中関連や、脳解剖といったところの講義もさせてもらつています。あとは研究とかもちよこちよやつている中で基礎研究をメインに

やつているので、基礎研究の中で姿勢制御とかには興味を持つていますので、しつかりと勉強しています。
松本 検索していると論文を見つめました。今回の発表もそうですが、姿勢制御とかすごく勉強されているのだな、というのをすごく思ひました。



県学会について

松本 今回県学会で発表しようと思つたきつかけはありますか？

福島 やつぱり島根県に帰つてきたので、一度は島根県学会で発表したいな

と思つていました。今回データが揃つてきたので発表したいと思ひ発表させていだだいたというのがまず一つです。もう一つ、今まで発表していなくて島根県学会に参加させてもらつたこともある中で、他の学会とはまた違つた、アットホームな感じがありました。またいろんな企画があつたり、学びの多い学会だと思つていたので、その中で自分も発表できたらいいかなと思ひ、発表させていだだきました。あとは、自分がやつている研究を発表することで島根県の他の方と関わつて

いろんな視点で研究が進められたらいいかなつていう思ひがあり、今回発表させていだだきました。
松本 実際に今回発表してみても感想や反響つてなんかあるのですか
福島 質疑応答のところ

で質問してくだつた先生以外にも、発表が終わった後にいろんな方から質問や、今後のアドバイスもらひ、非常にいいディスプレイができてよかつたです。他にはいろんな方の研究や症例発表など、いろんな分野にふれることができたつてというのが本当に貴重な体験でした。今回の学会は非常に楽しい2日間を過ごさせていだだきました。

松本 今回の研究を準備していく中で勉強になつたところありますか？

福島 研究の中で自分の発表に根拠をもたしたり、研究の意義を見出すためには先行研究を洗い出したり、今まで知らなかつた知識や、新しい視点を知ることができたのが、一番勉強になつたと思ひます。あと人前で話す緊張するので、今回大きな会場で発

表させていただいたことは自分としてもいろんな意味でプラスになったと思います。話し方にしても、プレゼンの仕方にしても非常に勉強になりました。

松本 すごく話し慣れている感じはしていましたが、緊張されていたのですか？

福島 やつぱり緊張はしていました。いざ壇上になると人がいつぱいいると思つて。

松本 壇上になると全然違いますよね。あの雰囲気とか。教員になられて臨床の時の価値観と変わったことはありますか？

り臨床で得られるものつてすごいなと思います。答えがまとまらないのですが、学校は学校でいろんな病院とか施設で働かれています。先生や学生との考えの違いや、認識の違いや技術の受け取り方の違い、つていうのを知れるのは、ある意味教員やつていて面白いところだなと思つています。



松本 最終的にはもう一回臨床家として働きたいなつていう気持ちが今強くなつていきますか？

福島 やつぱりあります。学校の中でも研究をしているのですが、やつぱり

学校で研究するのは確かに大変ではありますが、臨床に触れながら、その課題とかに対する研究とかできる人つて、本当にすごい人だつて自分自身思っています。なので、また臨床とプラス研究も一緒にできる自分にとつてもプラスだし、いろんな地域や病院、施設とかにも還元できるのではないかと思うので、また臨床に出たいですね。

松本 私から最後の質問ですけど、来年に向けた今後の展望を教えてください。

福島 展望としてはまた県学会で発表していききたいなつていうのは一つあります。あといろんな研究も少しずつ進めています。が、まだ論文化してないところもあるので、論文の執筆も少しずつ進めていききたいと思つています。あとこれ

が一番ですが、自分の基礎研究をいろんな病院とか施設とか地域とかで一緒に研究し、より良い治療法の確立につなげていけたらと考えています。

松本 素晴らしいですね。ありがとうございます。

部員からの質問

石田 ご経歴を聞いてみると最初の教師を目指した段階で理学療法士に出会つて、今は理学療法士の教員として理学療法の学生を育てていて、またご自身が理学療法士として患者さんと接する時もあるという、いろんな視点で理学療法を見てこられたと思うのですが、先生が思う良い理学療法士つて、どんな理学療法士なのでしょう？

福島 僕自身が考える良

い理学療法士つていうのは、1番は、やつぱり人と関わる対人的な職業ではあるので、患者様や利用者様との信頼関係を築いて、より親身になつて接することができない人がまず一番大事かなと思つています。そこができる人と結局どんな治療がいいのか、どうやって改善してどこの目標にやつていくのかというところが覚えてこないの、やはり治療技術や知識も大事だと思つていますが、最終的な着地点をうまく一緒に考えていけるような人がやつぱりいいセラピストなんじゃないかな、と私自身は思つています。

石田 肝に命じておきます。

野口 今までの話をお聞きしていると、すごく多忙な日々を送つておられると思うんですけど、今世間ではプライベートと仕事

との両立ってというのが結構話題にはなるんです。学術とプライベートと仕事を両立するのは大変な部分が多いと思いますが、先生の全部を頑張る、何かモチベーションというか、なぜそんなにも頑張れるのか、活動できるのか、についてお聞きしたいです。

福島 僕自身は、それこそ1つモチベーションになる目標を立ててそこを目指すっていうために頑張ろうってやっています。あとはやっぱり家族との時間や自分の趣味をより楽しむために、もっと仕事の方を効率よくし、家族との時間を大切にしています。しっかりとすみ分けすることで私自身成り立っていると思っています。例えば研究とか仕事のことを休みの日にやるとしても今日はやらなくてもいいって思ったらもうやらな

いですし、その時間を家族との時間に全部使うで、その残りの日はちよつと研究とか仕事のことやろうかなって思って、本当に両極端です。やるか・やらなにかみたいな感じで、私はやっています。あとは無駄な時間を作らない、スマホを見ないとか、テレビを見ないとか、それで何とか時間を確保したりはしています。

野口 ありがとうございます。無駄にツイッターしないようにします。

福島 たまにツイッターを開いた時に野口さんのつぶやきがあると妙に見てしまうので、楽しみにしています。プライベートとお仕事の時間の効率であったりだとか、自分の中の工夫などを考えてそこで作ってまたやっていくところが大事なんですね。あり

がありがとうございます。

松本 では、そろそろ終わろうかと思えます。我々も今後また繋がりをもつて、いろいろ協力できることあれば協力させていたりたいと思いますので、また声をかけてください。

福島 はいありがとうございます。

松本 では短い時間でしたが、ありがとうございます。ありがとうございました。

福島 こちらこそありがとうございました。

広報部のつぶやき

さまざまな経験を経て現在教員をされている福島さん。話していると今でも臨床しているのではないかと、思ってしまうほど臨床への疑問を形にしようとしている姿に、尊敬しかありませんでした。学校教育、

臨床研究と大変な中、子育てやさらに臨床にできる希望もあり、今後の活躍に注目していきたいと思いました。



The Interview

寺本 光佑

Kousuke Teramoto

山口整形外科医院

若き才能の挑戦
学会発表で得た自信と課題

【Guest speaker 紹介】

2019年に学校法人澤田学園松江総合医療専門学校理学療法士学科を卒業。同年にはまもと整形外科呼吸器内科クリニックに入職。2021年9月に山口整形外科医院に入職。

臨床では一般整形からスポーツ障害まで多岐にわたる運動器疾患のリハビリテーションを担当している。特にスポーツリハビリテーションでは、自身のハンドボール経験を活かしてメディカルリハビリテーションだけではなく、投球フォームやトレーニング指導など専門的なアスレティックリハビリテーションを提供している。

普段の活動について

松本 よろしくお願ひします。はじめに、寺本さんの自己紹介をお願いします。

寺本 山口整形外科医院で理学療法士をしています。経験年数は5年目になります。日頃の臨床としては、外来で整形外科疾患の方のリハビリを主に担当させていただいています。特にスポーツ分野に興味があるのですが、午後からは部活動をしている学生さんのリハビリを担当させていただく機会が多いです。

松本 寺本さん自身は入職してからずっと山口整形外科医院に勤めておられますか？

寺本 最初、別のクリニックに入職し、2年前にこの山口整形外科医院に入職

しています。

松本 日頃の活動や、臨床の様子を教えてください。

寺本 日頃の活動としてはスポーツ分野に興味がありますので、医科学サポートで本当に回数としてはあまりたくさん行けてないですが、部活動で障害予防の講義だったりとか、チェックだったりをさせていただいております。

松本 臨床としてもスポーツ分野に興味があるという感じですか？また、寺本さん自身はスポーツされていましたか？

寺本 スポーツに興味があります。私は小学校サッカー、中学は水泳を、高校でハンドボールをしています。

松本 寺本さん自身も怪我した経験がありますか？

寺本 大きい怪我はないですが、膝だったりとか、

顔から落ちて顎を怪我したりとか顔から落ちる状況がハンドボールにあつたのでケガはしました。

松本 「**FC**」になろうと思つたきっかけがありますか？

寺本 僕自身、ハンドボールしていた時にケガをしたりして、そこで理学療法士という仕事を知つたんですけど、それまではずっと調理師、シェフになりたかつたです。部活動にOBの方で理学療法士の方について、理学療法士としての関わりというよりはOBとして試合を一緒にするという感じの関わりだったのですが、そういう仕事があるのだな、というのに興味を持ったのがきっかけです。

松本 調理師は小さい頃からの夢でしたか？

寺本 そうですね。

松本 それを覆すほどの

衝撃があつたんですか？

寺本 そうですね。小さい頃から漠然と料理が好きだったのでなろうかなつていうぐらいで思つていたのですが、いざ仕事にするとなかなかなつていうところで家でも作れま

県学会について

松本 今回県学会で発表されましたが、発表しようと思つたきっかけを教えてください。

寺本 最初のきっかけは、院長から経験として発表してみたらどうかというご提案いただいたのが最初のきっかけです。私とし

ても、いつかは発表をしてみたいなつていうのはあつて、なかなか行動に移せてなかつたので、始まりとして院長先生に背中を押していただいたのはいいきっかけだったかなと思います。

松本 実際に発表するとなつた時にサポートとかはどうでしたか？

寺本 そうですね、職場の先輩と相談させてもらつて計画を立てて、院長先生にも相談をさせていた

松本 今回の発表が初めてでしたね。実際に発表してみても感想はいかがですか？

寺本 そうですね。発表に向けて動き出す前は大勢の前で発表するっていうこと自体が経験になるだろうなつて、思つて期待を持っていました。実際に発表してみても大勢の前で発

表したつていうのはやはり自信になりました。実際やつてみてそれ以上に発表に向けて情報収集したりとか研究について考えたりした準備の期間が、一番良い経験だったかなと思います。

松本 準備する過程の中でこれはすぐ勉強になつたなみたいな。具体的な

ものがありますか？

寺本 今回研究の発表を実施したのですが、私は恥ずかしながら統計がすごく苦手で、ほとんど一から勉強する感じで今もちょっと分からないことだらけなんですけど、一回ちょっと研究をしてみても論文を読むときにこういう研究をするに至つたんだろ





うかとか、背景をちょっと考えるようになって、そういったところがすごく勉強になりました。

松本 今回発表されてみて、またブラッシュアップされるとは思いますが、来年や再来年に向けた今後の展望が寺本さんの中にありますか？

寺本 今後の展望としま

しては、課題でも挙げたように対象者が少なかつたので相関関係までしか調査ができていないのが現状です。今後は対象者数を増やしていきたい、変量解析だったりとか、確認指標を読む影響度を調査していったらな、というふうに考えています。

松本 来年に向けてもデ

一夕の蓄積を始めているというところですね。素晴らしいです。そういった研究の分野ももちろんやっているといるところもあると思うのですが、他にこういった分野もつとやってみたいとか、そういった興味とかありますか？

寺本 今のところはスポーツ分野がまだまだだなと思うので勉強していきたいなというところがあります。

部員からの質問

石田 よろしくお願います。ちよつと重なるところもあるんですけど、さつきからスポーツのことをすごく好きなんだなと思

って聞かせてもらっているんですけど、スポーツ分野の理学療法に興味を持

ったのは、ご自身がスポーツをしていたからなのか、もつと違うきっかけがあったのか、聞かせてください。

寺本 ありがとうございます。スポーツ分野に関しては、実は理学療法士としてスタートする時点ではあまり考えていなくて、前の職場で理学療法士として働いている時にあまりスポーツに特化していきたくて。ただ近隣の学生さんが来られてリハビリをしていく中で分からないことも多くて、そこでちよつと悔しい経験し、スポーツのことを勉強するようになって興味が出てきたという形です。

石田 なるほど最初からスポーツと思っていたのではなく、いろんな経験をされる中で気持ちに向いていったという感じなんですね。面白いですね。も

う一個だけいいですか。発表に向けての準備がすごく勉強になったと言っておられて、院長先生から勧められるのってすごくいい職場だなと思って聞かせてもらいました。多分世の中には発表したいけどどうしようかなって悩んでいる人とか結構いると思うのですが、特に1年目とか2年目とか。もしそういう他の「コ」がどうしようかなって相談に来たら発表した方がいいよって言いますか？やめといた方がいいよって、いいいますか？

寺本 そこはもうした方がいいなって、実際経験してみてもいいと思います。

石田 そこでやっぱりした方がいいと思うのは自信がつくからですか。それとも準備がすごく勉強になったからですか。一番お勧めのポイントはなんで

すか？

寺本 そうですね。発表つてなるとすごく大変なイメージがあつたのですが、私としては楽しかったなつてというのが印象としてはあります。確かにいろいろデータを集めて、統計の勉強したりとかつていうのは、ちよつと大変な面もあつたのですが、達成感もあつてすごく充実してました。1年ぐらい準備したのですが、充実した1年間だったな、というふうに思います。

石田 素晴らしい。そういうのが記事になると、また背中を押される人も多分いるでしょうし、またそういう人が今回こうやって賞を取られたとなるから最高ですね。

寺本 ありがとうございます。

松本 今回受賞されてどんな気持ちでしたか？

寺本 研究を始めるつてなつた時にこういう賞があるつてことを知つて、そこを目標にできたので、なんとか達成ができて嬉しきよりもちよつと安心感というか、そういうのがあります。

松本 素晴らしいです。発表を後ろで聞かせてもらつていましたが、すごい上手で、堂々と喋つておられて、初めてとは全く思えないような印象でした。寺本さんよりも後輩とか1年目、2年目、3年目のPPTさんに学会に向けてぜひ発表した方がいいよみたいなメッセージをぜひいただきたいなと思います。

寺本 今回私学会に参加するのも初めてだったので、雰囲気がちよつとわからない、不安つていうのもあつたんですが、まず、発表に向けて参加してみるつてというのが大事、足を運

んでみるつてというのが大事かなと思います。

松本 今回初めて学会に行つてみてどうでした？

寺本 皆さんがいろいろ広報だつたりとかも拝見させていただいて、実際行つてみてすごく楽しかつたです。いろんな方の考えをお聞きできて楽しかつたなつてというのが率直な印象です。

松本 ありがとうございます。お時間もそろそろきますので終わりにさせていただきます。

寺本 ありがとうございます。

広報部のつぶやき

職場で発表してみないかという提案を受けてActionを起つした寺本さん。ただその行動は受け身ではなく、いつか発表した

いという思いを一押ししてもらおう声かけだつたと思っています。早い段階から準備をすることで得た自信や課題をしつかり把握すること今回受賞に至つたんだなと思えました。若い才能が次々と育つてきていることにワクワクする広報部一同でした。





発表を支える抄録作成サポート支援
と発表を支える学会長とのつながり

えだクリニック

竹下 幸枝

Yukie Takeshita

【Guest Speaker】

2000年、高知医療学院卒業。同年に出雲第二市民病院入職後、出雲市民病院へ移動。2006年に老人保健施設、恵寿苑へ入職。

その後2013年に現在の職場である、えだクリニック整形外科リハビリテーション科入職し、大田市で訪問リハビリに従事している。

普段の活動について

野口 これまでの経歴などを伺いたいと思います。

竹下 最初は回復期・生活期の病院に就職しました。出雲第二市民病院があった頃に入って、出雲市民病院ができて移りました。6年ぐらい働いてから、結婚を機に大田に来て、老健に就職しました。そこを7年ぐらい勤めてから、高見さんに誘われて現在のえだクリニックに就職しました。

野口 そうだったんですね。高見さんとはずっとご縁も多かったんですか。

竹下 高見さんとは高校時代、バレーボールで知り合っていて、それで学校も一緒だったんです。高知医療学院で高見さんが先輩、私がたまたま後輩だった

くらいです。

野口 すごいですね。そこまで一緒になってまた島根で働くってご縁ですね。職場も変わり、領域も変わっていく中で、自分の臨床は変わりましたか？

竹下 病院で働いている時には機能訓練重視っていう意識だったんですけど、自然に回復する力も皆さん持つておられるじゃないですか。経験が浅い頃はすごく自分が偉くなったなって勘違いしていた時期もありました。介護保険分野に行った時にすごく多職種との連携というのが大変だなあっていうのを感じました。施設では、病院で行っていた機能訓練の視点だけでは、意見が看護師さんや介護士さんたちに受け入れられにくいこともあり、生活リハビリの視点を持つ必要性を学びました。そして、訪問リ



ハに携わるようになって、一人ひとりの利用者さんの生活を中心に考え、多職種と連携することの意味や必要性がやっと実感としてわかるようになったと思います。

野口 現在の興味関心のあることが今回の演題発表に表れているのかもしれない。

れませんが、今、臨床や活動の中で興味があることはありますか？

竹下 今回の演題発表は、食への興味関心を引き出す取り組みという内容でしたし、食べることで動くことを一緒に考えるということは、興味の一つではあります。ただ、普段の業

務に携わる中では、在宅生活者を急性期病院に再入院させないっていうことが自分の中で目標としてあります。家でできるだけ過ごしてほしい。例えば転倒による骨折で急性期病院に戻るとか、誤嚥性肺炎でまた急性期病院に入院とか、そういうことをできるだけ減らしていきたいなっていうのが自分の目標です。

野口 それを感じたきっかけのようなものはあるんですか。

竹下 とある研修動画の中で、在宅生活者の急性期病院への再入院をリハ職の関りで予防できることがある、それは誤嚥性肺炎だということをお話されていて、共感を得たというのが大きいです。

野口 私たちも予防のために行ったけど、やっぱり家でやってしまったかー

みたいのがあってもどかしい経験も多くあります。その辺在宅のスタッフの皆さんとも協力しながらやれると常々でいいなあと思ったところだったので、情報共有を図れるとすごい嬉しいですね。今回すごく面白い取り組みだなあとあって拝見させていただきました。こちらを发表しようと思っ

きつけかけや思いをお聞かせください。

竹下 きつけかけというと、大田食支援研究会というところに入っていて、会の代表から、この取り組みはどうか表に出さないといけないっていうのをすごく言われていたので、どこで発表しようかなーと

考えていたところ、今回の県学会は、高見さんが会長だったので選んだというところが大きいです。また抄録作成サポートがあったのが大きかったです。

ったのが大きかったです。同じ時期に島根県学会と訪問リハ学会があったんですけど、どちらがいいだろうという話を高見さんに相談した時に抄録作成サポートあるしねっていうことで、県学会に決めるところがあります。

抄録作成サポート

野口 あの今、抄録作成サポートの話題が出ましたけれど、実際使用してみられていかがでしたか？

竹下 多分皆さん（支援者）、私より年が下なのだろうと思うんですけど、すごく丁寧に、優しく指導していただいたんです。こんなことを学会で発表してもいいのかなっていう不安を持ちながら、今回の支援を申し込みました。支援者の皆さんから、発表内容自体にも興味を持ってい

ただいて、応援してもらっている感じがすごく伝わってきたので、とても心強い存在だったなあと思っています。

野口 そのようなコメントをいただけて、嬉しいです。

竹下 質問とはずれるかもしれないんですけど、サポートチームのスタッフの中でも発表後にメッセージで伝えたいんですが、特に少人数職場、介護保険分野の理学療法士についてというのは、あまり学会などで発表するチャンスがないというか、チャレンジしたくてもなかなか難しいかなって私も感じていました。少人数職場だったら指導者が不足しているんで、自分一人で行こうって自信がつくまではなかなか難しいこともありま

す。今後この抄録作成サポート支援を継続してもらって、地域で働く療法士たちの活躍を発表できる場が広がるといいなと思います。県学会だけに限らずなんですけど、大きな病院で働く人たちがばかりじゃなくて、そういう少人数職場で働く人たちも一生懸命考えて働いていることを発表できたらいいなあとは思っています。

学会発表に関して

野口 ありがたいお言葉です。そのような方々に少しでも1アクションを起こしやすい環境を作りたいなというところで一緒に進めてきたところでもあったので、そのような言葉をいただけて本当に嬉し

てありがたかったというようなものはありますか？

竹下 抄録をもとに本当に細かく添削をしていただいて、ズームでも顔を合わせてやり取りをして、本当に修正内容がわかりやすかったし、発表の流れ自体もその抄録があることで、基礎部分がかたまっていたのでスライドを作ったりとか、発表内容とかも作りやすかったなと思っています。

野口 実際に発表してみ

ていかがでしたか。学会後は職場や、ご自身の気持ちや行動に変化が生まれることなどはありましたか？

かせて自信を持つこともできました。応援してくださる声もたくさんかけてもらったので、学会というのは自分が試される場ではなくて自分の取り組みを聞いてもらえる場なんだなっていうふうな思考に切り替えることができ

たかなと思いました。発表が終わった後にも知り合いに「良かったよ」と結構声もかけてもらいました。抄録作成サポートのメン

バーからも良かったよって言ってもらえて嬉しかったです。えだクリニックや大田食支援研究会からの意見ももらいましたし、本



竹下 発表自体はすごく緊張しました。ただその発表までにいろいろな方の意見をもらって、一緒に作り上げてきた内容だっ

ていうふうに自分に言い聞

もどんどん取り組みを進めていくんであろうと思います。来年再来年に向けた今後の展望など、お聞かせてもらえたらと思います。ですがいかがでしょうか。

竹下 確かに今回はカード作成のプロセスについて発表内容だったんですけど、これから実際に使用していかうと思っております。最終的には食べることに関する困り事を拾い上げて支援に結びつけることができ、美味しく食事を食べて元気に過ごせる人が一人でも多くなってくれるといいなあと思っております。どこかのタイミングでまたこの取り組みを発表できるといいのかなと思っております。カードは何部か作成して包括支援センターだったり、社会福祉協議会の方にレンタルしながら進めていきたいです。

野口 ぜひぜひ第2報を待っております。

広報部員からの質問

石田 竹下さんの今回の発表はモデルになると感じています。今回の抄録作成サポートが使われたっていうのもそうですし、ペタランの方がもう1回県学会で発表しよう、県学会でみんなが発表しようという要素が今回竹下さんの発表にあるように思っていました。同じような境遇の方の背中を押す1つが、おそらく今回のその抄録作成サポートだったと思うんですけど、より多くの方に発表してもらおうと思った時にどんなことがあると良いですか？

竹下 抄録作成サポートはとても心強かったです。今まで学会に参加して、研究発表を聞いていてもあ

んまりついていけない部分もありました。やっぱり学会は病院の人が発表するもんだみたいな。なんとなくのそのイメージが自分の中にあつたなあっていうのがありました。これが例えば分科会のように医療系と介護系のように分けてあると、介護保険分野の人もある程度発表しやすいのかなあと思えます。

野口 なるほど、そういう枠組みがちんと設けられていて出してもいいんだっていうところが明確に提示されていると、出してみようかなみたいなという気持ちになるかもしれないですね。貴重なご意見をありがとうございます。今回の取り組みもほんと素晴らしいなと思います。第2、第3報をお待ちしております。本日はお忙しい中、お時間をいた

いただきありがとうございます。

全員 ありがとうございます。

広報部のつぶやき

様々なタイミミングが重なり県学会の発表に繋がったのだなと思いました。

学会長とのつながり、抄録作成サポート、竹下さんのI Actionを企画した学会運営部、サポートを行った研究支援部、全てが繋がって数十年ぶりの学会へと足を踏み出した竹下さんの行動力が素敵だなと思いました。





脳腫瘍と闘うPTが語る

地域での活動と今後の課題

公立邑智病院

田中 祐介

Yusuke Tanaka

【Guest speaker 紹介】

2017年に出雲医療看護専門学校を卒業。同年に公立邑智病院へ入職。運動器、脳血管、呼吸器、心疾患など様々な領域の方々の理学療法に関わっている。自身も脳腫瘍の診断を受けた当事者として、「障害受容とはなにか」ということに興味を持っている。

取得資格：脳卒中認定理学療法士、骨粗鬆症マネージャー

県学会での発表経験

石田 本日はよろしくお願ひします。

田中 よろしくお願ひします。

石田 もう早速なんです
が、このたびの県学会で
発表をされたじゃないで
すか？

田中 はい。

石田 あの内容は介護予
防事業の話だったと思
うんですが、事業を行う
までの経緯は、美郷町
から連絡があつてとい
話でしたよね？

田中 そうですね。美郷
町からこちらに委託とい
うか、ご相談いただいた
のがきっかけです。

石田 それをまとめて県
学会で発表しようと思
たきっかけはなんだった
でしょうか？

田中 はい。この取り組

みをつかたちにしたか
つたつていうことと、県
士会員が美郷町内には誰
もいないので、そういう
状況もぜひほかの県士会
員の方々に届くといいな
と思つて。

石田 ちよつと問題点の
共有じゃないですけど知
つてほしいということ
すかね。

田中 はいそうですね。

石田 発表してみても、実
際に感想というか、手
応えというか。

田中 手応えですか。手
応えは全くないです。笑
けど、座長を務めていた
だいた先生とか学会審議
委員の方からも、コメン
トを頂戴して、他の施設
の方とお話ができたつて
いうのが非常に良かった
なと思ひます。

石田 なんかこう他施設
の人とお話して、具体
的に良かったなと思ひ

点つて、どういうところがあるんですか？

田中 えーとですね。ちよつとやっぱり自分自身その研究というか、統計とかもあるんですけど、全然知識がないので。当日に、学会審議委員の方からですね、こういうふうに統計で解析しても面白いんじゃないかっていうようなアドバイスを頂戴したので、この辺りですごく良かったなと思います。

石田 発表することで、人と繋がれたのは魅力ですね。

田中 そうですね。

石田 今後も、その事業はまだまだ継続していかれる予定ですか？

田中 えーとですね。現状では、今回のようないわゆる介護事業はまだ特に話はなく、ただ、美郷町内のいわゆる老健と

か施設で入所されている方への運動指導とかそういった関わりは今もですし、今後も継続していかれるのかなと思っっています。

石田 じゃあまたこれまではちよつと違った形にはなるけど、アプローチというか、何か取り組みは行っていくという感じですかね。

田中 続けていけたらなと思います。

石田 またそれを発表される。笑

田中 もちろんです。

石田 続いての質問ですが、今回発表するにあたって色々準備もあったと思うんですけど、準備される中でこういうのは勉強になったなみたいなことはありますか？例えばこれから発表したい！と思っっている人もいっぱいいると思うんですけど、反

対に発表するの意味あるのかな？みたいな人も多分いたりして、こういうのが勉強になるよって分かる、また違うだろうなと思ったりするんですけど。

田中 なるほど、そうですね。なんかこの年度は学会部の方々がパワポとか書録の作成の仕方みたいな色々資料を添付してくださって、そういうのを見ることが、発表するときつけにもなったり、学びにもつながったかな、という風に思っています。

石田 それを見ながらだと、ある程度こうやればいいんだみたいなのがわかるということですかね。

田中 そうですね。なんかそのお作法じゃないですけれども、そういうことを知るきっかけにな

ったかなと思っております。

松本 ちなみに県学会で面白かった演題とか、気になった演題とかありましたか？

田中 他の演題ですか。それこそSCIのことか。

松本 神経系に興味あるって言っていましたね。

田中 あと、脳血管患者

さんの目標設定の話も面白かったです。

日々の業務

石田 ちよつと話は変わりますけど、田中さんの日々の臨床業務は、どういうことをどんな方々にしておられるんですか。

田中 当院は90代ぐらいの高齢の方が多いです。





運動器とかの脳血管疾患はもちろんなんですけれども、マルチモビリティ（多疾患併存状態であること）の方々に對してのリハビリ業務が多いですかね。

石田 対象の方は、基本は入院しておられる方々ですか？

田中 そうですね。入院患者さんがほとんどで、

他は整形疾患の方だと、外来もいらつしやったりで。

石田 そうなんですか。

田中 さんの興味としては、今回の介護業務事業のような取り組みに一番興味があるのでしょうか？

田中 興味・・・もちろん地域っていうところもありますけれども、個

人的には脳卒中の領域とどうか、神経系の領域にすかね。中枢系の領域に興味は強いかなと。

石田 なるほど。今後はまたそういう分野にも関わりながら？

田中 あとは自分自身が10年前ぐらいに倒れて。脳腫瘍が見つかったんです。そういうことで島根大学さんにも10年前ぐらいに一週間ぐらい入院していたんです。

石田 そうですか。

田中 今も治療中ですけども。そういう経験から、当事者研究ではないですけども、当事者としてできることがあればなというふうにぎつくりですけど考えています。

石田 これは誰にでもできることじゃないので、僕らが患者さんを見ているだけじゃわからない考え方とか、田中さんだけ

ら深掘りできることは多そうですね。

田中 そうですね。せつかくこの仕事に就いているので、何かここから発展できればなと思つています。

石田 ちなみにですけど、記事について、いまの部分で書かない方がいいですか？

田中 書いてほしいです。隠す形じゃなくて、むしろちよつと書いて、分かっていたいただいた方がいいです。

石田 わかりました。ありがとうございます。あと、なんかさつき松本さんに聞いたんですけど、ツイッターで田中さんが盛り上がってるっていう話聞いて。（施設見学に行きたいというXのpost）

田中 そうですね。バズってますね。

石田 見学ができたらし

たい？

田中 そうですね。やっぱり県学会においても、かなり地域とか施設の差があるかなっていう印象を持っています。

あの、戦っているわけではないんですけど、やっぱり学会長賞とか優秀賞とか最優秀賞とか、いつも現地（東部）の方々がいろいろ表彰されていますよね。全く追いついてない自分の学術の状況もあるし、が悔しいなという印象ですかね。

松本 自分自身もレベルアップもしないといけないし、割とでもその地域にやつぱりちよつともうちよつと盛り上がつてほしいなみたいなものもあるんですね。

田中 そうですね。もちろんあります。

松本 美郷町って県央エリアですね。それだと

出雲と一緒にですよ。一応ね。こうやってオンラインだといくらでもね、お話ができるんで、いろいろ絡めたらなあと思います。

田中 ありがとうございます。

今後の思い

石田 すでに結構いろいろ面白い話は聞いているんですが、・・・来年再来年あたりでこういうこともやってみたいなみたいなことがもしあればぜひ聞かせてもらいたいですけど。

田中 一番はちよつと学術活動を、もつと質を高めていけるように。具体的に言ったら、全国学会や、分化学会とかでも発表ができるような療法士になりたいなっていうと

ころがあります。あとは当事者として障害受容とかのところですかね。実際になかなか学校教育で習ってきたものとは比べ

て、受容っていうのは難しいなという印象もあります。そういったところから当事者研究にも発展していったらな、というふうにぎつくりですけれども思っています。

石田 結構面白いですよ。ね。

田中 本当ですか。

石田 今はその話をたっぷり聞きたいくらいですよ。確かにおっしゃる通りであんまり患者さんがどう障害受容するか、そもそも障害を受容できるのかについて、評価も含めて、具体的に習うということもあまりないですよ。患者さん本人に聞くことって、なかなか難しかったりもしますの

で。いろんな施設巻き込んでできたら面白いかもしれないですね。

田中 そうですね。できたら。

石田 そろそろ締めに入らせてもらうんですけれども、なにか感想でもあれば。笑

田中 そうですね。いやいや、あのまさかこのようなことになると思ってたので、ただただありがとうございますという気持ちです。地域によつて温度差とかはどうしてもあるかなと思うので、西部からもつともつと盛り上げていけたらなと思っております。

石田 ありがとうございます。来年度の県学会も今度西部であるし、また盛り上がるきっかけにもなりそうですね。

田中 ありがとうございます。

広報部のつぶやき

田中さんの発表や取り組みが面白く、学会会場で声をかけさせていただいたのが、このインタビューを実現させるまでの流れでした。インタビューでは、田中さんが一つ一つ大事に言葉を発するこ

とが印象的で、我々の心に響く内容も多くありました。これからの取組みに期待が高まります。





Kenta Sakane

坂根 健太

よろこぼう屋

学会参加のハードルを
越えた先の未来とは

【Guest speaker 紹介】

2013年（平成25年）島根県松江総合医療専門学校 理学療法士科 卒業

同年 医療法人社団 水澄み会 介護老人保健施設 アゼーリみずすみ 入職

2017年（平成29年）有限会社 ホットケアセンター入職

2018年（平成30年）有限会社 よろこぼう屋デイサービス入職 （令和5年）デイサービス 管理者

普段の活動について

野口 坂根さんの自己紹介も兼ねて、これまでどんな経歴で今に至っているのか、職場のこと、職場でやっていることを踏まえて教えていただきます。お願いします。

坂根 島根県江津市にある「有限会社よろこぼう屋デイサービス」というところで管理者をしております。坂根健太と申します。よろしくお願います。出身は島根県の江津市で松江にある松江総合医療専門学校を卒業し、まず、最初に老人保健施設に入職して、その後は異動や転職で特別養護老人ホームや訪問リハビリも経験させて頂きました。今の職場は理学療法士が私を含めて3名でリハビリ業務と在宅生活において必要な入

浴とか食事・排泄、動作など、現場職員と協力して支援を行っています。その他に家族に対する介助方法、指導、助言や、自主トレーニングの指導を行っています。この施設には福祉用具専門チームがあるので、その方たちと一緒に選定等も行っています。

野口 忙しいじゃないですか？毎日。

坂根 実際入浴介助とか人員が少ない職場だとかよっとお手伝いということもあちで言われることもあります。自分自身、手伝いとは捉えずに、評価の場として一緒に手伝っているので苦ではないですね。

野口 それは臨床上の今の興味にもつながっているのですか？

坂根 私の働くデイサービスには脳血管障害、呼吸器疾患、慢性心疾患などいろいろな方がいらつしや



います。高齢化社会における在宅生活を考えると、三学会合同呼吸認定士の資格を取らせて頂き、呼吸の勉強含め日々昇進している毎日です。

野口 すごいですね！今坂根さんが頑張られていることに対して、他の同僚スタッフ2人は一緒に活動しようよ、という雰囲気がありますか？

坂根 職場の同僚2名は、僕よりかなり大先輩なので僕より知識が豊富で、

呼吸以外にもいろいろな疾患に対して日々勉強させてもらっています。呼吸も踏まえながら一緒に頑張っているというところ

野口 すごいですね。
坂根 理学療法士が3名いるというところもうちの職場の強みです。

県学会について

野口 では、県学会に参加しようと思っただけ

は？当院に臨床見学に来ていただいた時には、県内で開催されている理学療法術集會のことを知らない状態だったとお聞きしていたのですが、そこから実際に学会参加したと思ひ、参加に至った気持ちの変化や行動の変化を聞かせていただきますか？

坂根 そうですねお恥ずかしい話、学会というところは以前からももちろん耳にはしていましたが、県学会に参加してみないかというお誘いを受けたことが一番の理由です。自分一人では「よし、参加しよう」と思わなかったと思ひます。実際学会は、レベルが高いという認識がかなり強くて、なかなか踏み出せないというところがありましたけど、いざ参加してみると違いましたね。たまたま知人の理学療法士と

出会って、そこからどんどん自己紹介する場面や機会をいただいて、横とつながりが持てたと感じました。自分が持っている学会というイメージは極端に言うかと反転したという感じですね。

野口 良かったです。僕たち運営側もそうやって新しい方々との出会いや意見交換ができると思ひます。そうやって非常に感じてもらえて非常に嬉しいです。

学会の中で学びとなったこと、プログラムで感じたこと、臨床で次活かしたいなと思っただけなど何かありましたか？

坂根 今回学会で皆さんが発表した演題とは別に伊藤さんが発表された健康についてです。施設に働いていて、予防という観点から地域に向けて何か発信できるのか考えな

がら真剣に聞かせていただきました。実際に在宅で介護されている方や、この会場にいらっしやった方何かしら吸収しようと思ひて参加されているのだなという風に感じました。私も、利用者様や家族様方にも健康や予防も含めて伝えていきたいと思ひ、とても参考になりました。

野口 ありがとうございます。ぜひ「よろこぼう屋」の中でできそうなところから始めてもらえると地域に貢献できると思ひます。

県学会に参加してみたの感想をお伺いしましたが、坂根さんから見て県学会や県学会に求めることがあれば聞かせてもらえますか？

坂根 今回の学会のテーマは「共に育む」で県士会のビジョンにもあるので、共に学ぶとか地域

に生きるつていう観点から今回参加して感じたのが、お子様専用のスペースですね。子どもも連れてきていいよつていうことにもまず驚いたのと、実際遠くから来る方もいらつしやいますし、子育てに大変なご家庭もあるので子どもを見ながら学会に参加できるところはいいと思います。

私も、子どももいるのでたびたび研修というところで家を空けるのも難しいのでそれならば家族も連れてちよつとこの時間はここにいても大丈夫なところがあると助かります。

会場を見渡したら、制服姿の学生さんもおられたので、そう思うと今回の「共に育む」「地域と共に」という意味で、地域の方々も一般の方々も参加されてい

たので、そのビジョンのテーマのまま進めてほしいと思います。私が実際、気になった点は、距離の問題で、出雲だと1時間半、松江となると2時間弱かかります。もう少し近場が良いと助かりますね。あとはやつぱり服装ですかね。学会というとスーツのイメージがあつて、いぎスーツ姿の方たちがずらつと並んでいると、ピリツという風に引き締まりますね。発表される方はスーツなのは分かりますが、見に来られる方はもう少しラフな格好でもいいよつていう感じであれば嬉しいですね。

野口 ありがとうございます。非常に参考になるご意見ばかりでした。託児サービスのこともやつてほしいというご意見

もたくさんいただいているのでぜひ継続してやっていきたいなと思いますし、学会部として今後どう運営していったらいいか分からない部分もまだまだありますので、そのような声を大事にして一緒に作り上げたいなと思いますので、ご意見伺いたいただきたいです。

最後に来年や再来年に向けた今後の展望についてお話を聞かせていただけますか？

坂根 今回学会に参加させてもらつて、自分の学会イメージが変わつたので、今後も参加という形からですが、どんどん積極的に参加していけたらなと思います。

私は今後も地元である江津市で働きたいと思つています。地元である江津市で、地域の方々を集め、予防体操や介護技術の指導

など、何かしらのかたちで、地元のために貢献出来たらと思います。

医療と介護の連携が大事とは言いますが、やはり、病院退院後、生活度合いによつて再入院や身体的な機能低下などを考えると、しっかりとこちらで介入していかなければと考えられています。

利用者様が「みんなに出会えて良かった」と思つていただけるような理学療法士として、働きたいなと思

つております。
野口 ありがとうございます。ました。

広報部のつぶやき

県学会の参加は距離やイメージの問題でハードルに感じかと思われまふ。他の誰かに誘われたことをきっかけに学会参加のActionを起こせたのであれば、次回は坂根さんが誰か誘つて参加してみてくださいね。



EDITOR'S NOTE

このSPiriT特別版では島根県内の会員を紹介する企画として生まれた企画になります。今回は大盛況に終わった島根県理学療法学会の受賞者、初めて学会に参加した方、特別な思いを持って一般演題で発表した方を中心に広報部がピックアップさせていただきインタビューをさせていただきました。

インタビューをする中で、改めて発表内容への思いや、準備する中で感じた悩み、日頃の活動をいかにもまとめて発表すればよいのかなどの様々なお話を聞くことができました。こうやって会員の皆様と面と向かって話をする機会も減っていましたので私にとってもとても良い経験で、もっといろんな方々へお話を聞きたいと思い、この企画をやってよかったなと感じました。

今後もこのインタビュー記事は随時更新していく予定となっております。紹介してほしい会員の方がおられたら、自薦他薦は問いませんので、ぜひ広報部まで連絡ください。

少しずつ会員の皆様と距離を縮めていき、ワクワクする内容をお届けできるよう、広報部一同頑張りますので、今後とも島根県理学療法士をよろしくお願いいたします。

広報部部长 松本拓也

〔ご協力のお願い〕

県士会の“つながり”を作っていくためにも、今後も会員の皆様へインタビューをさせていただくこともございます。ご協力をお願いいたします。

あの方を紹介してほしいなどご要望がございましたら、お問い合わせ先までご連絡ください。



県士会ホームページ



Instagram



Facebook



X (旧Twitter)

お問い合わせ先

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89 - 1
島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部
島根県理学療法士会 広報部 松本拓也
メール：spta.information@gmail.com